

令和6年12月6日
国土交通省関東地方整備局
企画部

大学等研究機関からの技術公募を開始します

～関東地方整備局が抱える現場ニーズの解決を目指して～

関東地方整備局では、大学等の研究機関が持つ先端的な技術（シーズ）を対象に実践的な環境の中で連携して技術研究開発を促進し、早期の社会実装・実用化を促すことにより現場ニーズ（現場で解決したい課題）の解決を目指す取組で、令和2年度から実施しています。

（大学等研究機関とのマッチング）

この度、5つの募集テーマについて、大学等研究機関とのマッチングの技術公募を開始します。

1. 公募期間 令和6年12月6日（金） ～ 令和7年1月24日（金）
2. 委託研究期間 同一の募集テーマで最大3年間（最大で令和9年度まで）
3. 募集テーマ 次ページに記載（5テーマ）
4. 公募資料 募集要領、提出様式（別紙ー1、別紙ー3）

詳細は、関東地方整備局の『現場ニーズと技術シーズのマッチング』のホームページをご確認ください。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 神奈川建設記者会

<問い合わせ先>

関東地方整備局 企画部

電話：048-601-3151（代表） メールアドレス：ktr-netis@mlit.go.jp

建設情報・施工高度化技術調整官 中島（なかじま）（内線：3132）

施工企画課 建設専門官 大根田（おおねた）（内線：3456）

【募集テーマ】

公募技術（シーズ）は、下記の5項目のいずれかに関するものとし、関東地方整備局のニーズとマッチングの可能性がある技術とします。なお、下記項目に関連する要素技術の研究も可とします。

- ①地下トンネルの点検を無人で行う技術研究
（想定事務所：江戸川河川事務所管内）
- ②天然由来（セメント除く）の材料を用いて土砂を塊状にする技術研究
（想定事務所：日光砂防事務所管内）
- ③流域の積雪量を自動で観測・算出する技術研究
（想定事務所：利根川ダム統合管理事務所管内）
- ④街路樹の健全性を外観から自動で判定する技術研究
（想定事務所：相武国道事務所管内）
- ⑤中和材を用いないで酸性河川水を中性化する技術研究
（想定事務所：品木ダム水質管理所管内）

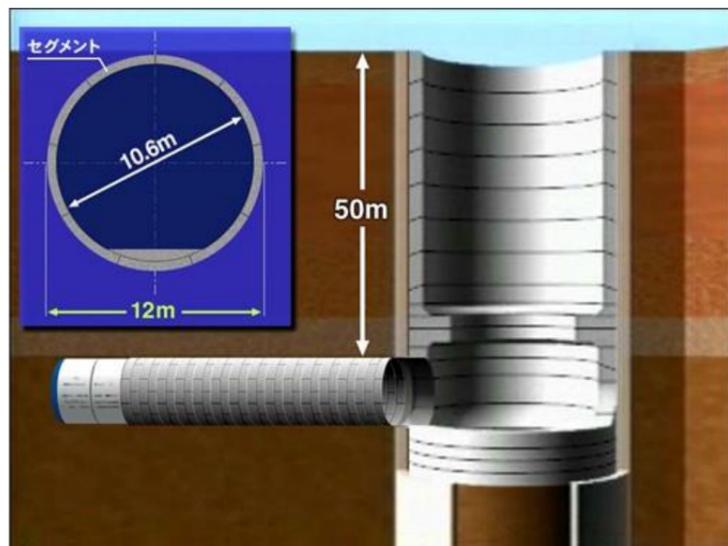
〈技術シーズの公募 ホームページ(募集要項等)〉

<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000222.html>

【参考】公募技術テーマの事例

①地下トンネルの点検を無人で行う技術研究

研究対象は、江戸川河川事務所管内にある首都圏外郭放水路（地下50mにある内径10m、総延長6.3kmの施設）を想定している。現状は、徒歩による目視及び打音等の点検を実施している。



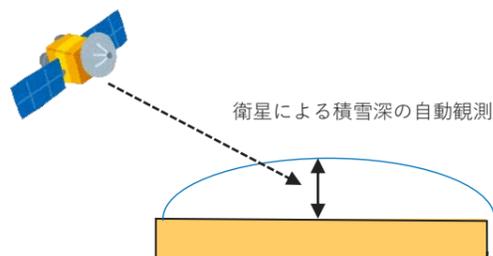
②天然由来（セメント除く）の材料を用いて土砂を塊状にする技術

研究対象は、日光砂防事務所管内での実施を想定している。現状は、ニッコウイワナなどが鳥類から身を隠せるよう巨礫を河床に配置しているが、現地採取した粒径の小さな砂礫を固化した塊で代替したい。



③流域の積雪量を自動で観測・算出する技術研究

研究対象は、利根川上流域を想定している。現在、冬期における積雪観測を流域全体で実施、調査しているが、テレメータ化されていない観測地点もあるため、安定的に流域全体を面的に積雪観測をおこなう技術を望むものである。



④街路樹の健全性を外観から自動で判定する技術研究

研究対象は、相武国道事務所管内での実施を想定している。現状は、定期的な管理（剪定や点検）で発見された異常の疑いのある街路樹を、詳細調査として樹木医により、時間をかけて確認している。

状況写真



街路樹 根部写真



【参考】公募技術テーマの事例

⑤中和材を用いないで酸性河川水を中性化する技術研究

研究対象は、品木ダム水質管理所管内での実施を想定している。現状では、白根山や本白根山からの温泉水は酸性化しており水環境が悪いため炭酸カルシウム（石灰）により中和を行っている。

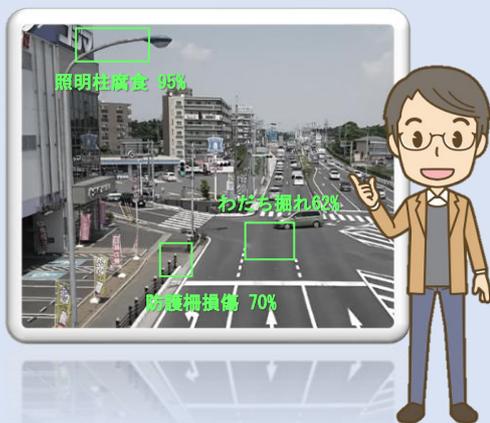


「大学等研究機関とのマッチング」で 技術研究開発をスピードアップ



「大学等研究機関とのマッチング」は、関東地方整備局の現場ニーズ（現場で解決したい課題）とのマッチングを経て採択された大学等の研究機関が持つ先端的な技術シーズを対象に、実践的な環境の中で連携して技術研究開発を促進し、早期の社会実装・実用化を促すことにより課題の解決を目指す取組みです。

技術シーズ：大学等の研究機関



カメラ映像とAIを駆使して、道路の様々な不具合をリアルタイムで検出する技術を研究開発しています

マッチング
成立



現場ニーズ：関東地方整備局



点検に必要な予算・人員を十分確保できない中、将来この技術が実用化されれば飛躍的に効率上がるかもしれない

実践的な環境の中で連携して技術研究開発を促進

- ・ 多種多様な事業を展開する関東地方整備局のフィールドでデータ取得等が可能です。
- ・ 現場職員等の声をダイレクトに収集して技術へフィードバックできます。
- ・ 委託契約の締結により、研究開発資金をバックアップします。

※ 上記の技術シーズ及び現場ニーズは、取組み概要を説明するためのイメージであり、実際のものとは異なります。

募集要領等は、関東地方整備局「大学等研究機関とのマッチング」のウェブサイトをご覧ください。

「技術シーズの公募」に関するページ（募集要領等）

<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000222.html>



主な応募要件等（詳細は募集要領をご確認ください）

応募者の資格

- ・ 大学・高等専門学校等（※1）で技術開発・研究に従事する個人・組織。
- ・ 同一の技術内容で、国土交通省及び他省庁等の補助金等を受けている技術開発に従事していない。

※1：学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく大学又は高等専門学校、同附属試験研究機関。

※2：応募技術の開発に参画する「個人」又は「民間企業」、「行政機関等」は自ら「応募者」にはなれないが、「共同開発者」として申請することは可能。

応募技術の要件

- ・ 募集要領で規定する「技術テーマ」に該当する技術。
- ・ 新技術情報提供システム（NETIS）に登録されたことがない技術。
- ・ 公共事業に活用する上で、関係法令に適合している技術。
- ・ 技術概要及び試験結果等を公表しても問題が生じない技術。
- ・ 特許権等の権利について問題が生じない技術。

その他

- ・ 研究期間は、同一の募集テーマで最大3年間。
- ・ 1件あたりの委託研究費は、各年度500万円以下（諸経費、消費税相当額を含む）を想定。

研究資金の適正な執行について（不合理な重複・過度の集中の排除）

研究資金（他府省の競争的資金等を含む）の不合理な重複及び過度の集中を排除するため、国土交通省は、以下の措置を講じることが出来ることとします。

- 1) 不合理な重複及び過度の集中の排除を行うために必要な範囲内で、応募内容の一部を他の研究式配分機関に情報提供する場合があります、不合理な重複及び過度の集中があった場合には採択されないことがあります。
- 2) 応募書類に記載されている研究資金の応募・受け入れ状況について事実と異なる記載があった場合は、不採択、採択取消又は減額配分をする事があります。